

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予報第10号(1月)について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生現況	発生予報	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	ハダニ類	多	多	やや多
	アザミウマ類	-	-	やや多
キュウリ	うどんこ病	やや多	やや多	やや多
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ	多	多	多

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年より高いでしょう。降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

(福岡管区气象台 18年12月15日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【野菜】

1 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

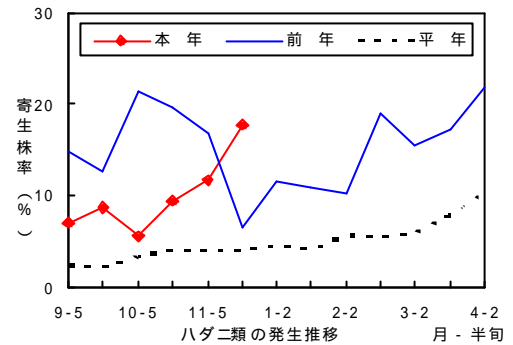
発生量：平年より多く、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果（+）

寄生株率 17.1%（平年 4.1%、前年 6.6%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。（+）



(3) 防除上の注意

平成18年12月22日付技術情報「イチゴのハダニ類防除の徹底について」を参照のこと。

2 イチゴのアザミウマ類

(1) 予報の内容

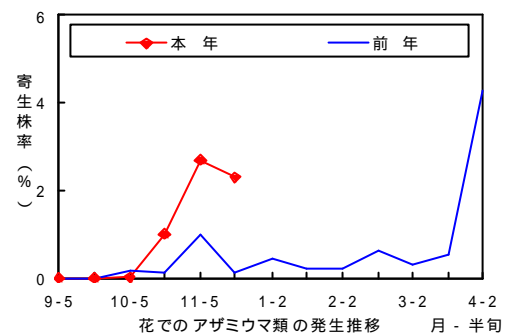
発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果（+）

寄生株率 2.4%（前年 0.2%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。（+）



(3) 防除上の注意

ア 果実の被害や花への寄生を観察し、防除を行う。なお、花に軽く息を吹きかけると成虫が飛び出し、観察できる。

イ 薬剤によってはミツバチ、天敵への影響があるので、薬剤の選定は注意する。

3 キュウリのうどんこ病

(1) 予報の内容

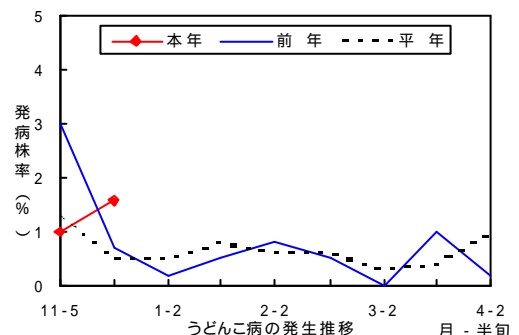
発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果（+）

発病葉率 1.6%（平年 0.5%、前年 0.7%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高く、降水量は多い。（+）



(3) 防除上の注意

ア 加湿にならないよう換気を図る。

イ 発病初期に防除の徹底を図る。

4 ミナミキイロアザミウマ（野菜共通）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果(+)

ナス寄生葉率15.3%(平年7.0%、前年8.8%)

ナス被害果率 1.5%(平年0.6%、前年1.5%)

キュウリ寄生葉率 0.1%(平年1.1%、前年 0%)

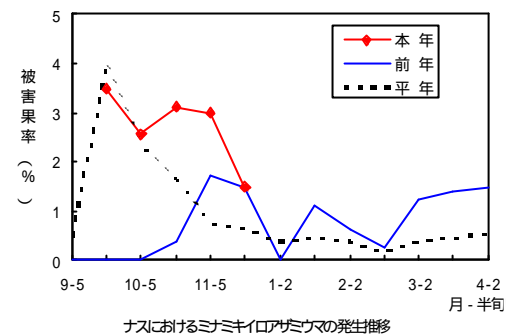
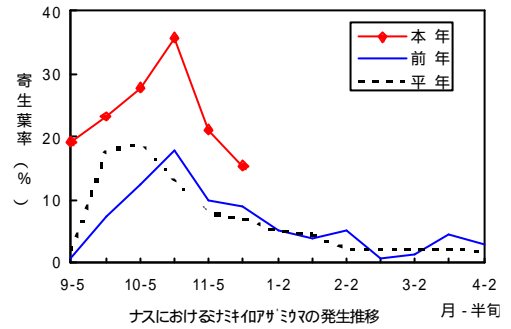
イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年より高い。(+)

(3) 防除上の注意

ア 春先は多発し防除が困難となる傾向があるので、この時期の防除を徹底し密度の低下を図る。特に、ナスでマルハナバチを放飼する場合は使用できる農薬が制限されるため防除を徹底する。

イ 本種はキュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。このウイルスはアザミウマ類が低密度でも伝染し蔓延する恐れがあるので、本病の発生地域では、発病株は速やかに抜き取り土中に埋める等の処理を行い、初期の防除を徹底する。

ウ 防除対策については、平成18年11月13日付「速報第6号」を参照のこと。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
イチゴ 灰色かび病 うどんこ病 アブラムシ類	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。 二重カーテンをしているところは 加湿になりやすいので換気を図る。
	少	やや少	やや少	
	並	並	並	
ナス うどんこ病 灰色かび病 すすかび病	少	やや少	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
	やや少	並	並	
	やや少	やや少	並	
トマト 灰色かび病 葉かび病	並	並	並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
	並	並	並	

作物名 病害虫名	発生現況	発生予報		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
キュウリ べと病 灰色かび病	やや少 並	やや少 並	並 並	発病後は防除が困難になるので、 予防的に防除を行う。
キャベツ 黒腐病 菌核病 コナガ	少 やや少 並	やや少 やや少 並	並 並 やや多	
野菜共通 コナジラミ類	並	並	並	

農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数の使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 生産履歴の記帳

農薬使用の際は、作物、ほ場毎、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpjn.ne.jp